

あるべき姿(概ね30年後)

- 里山・里海に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの資産が、守るべき価値あるものとして、内外の人々により引き継がれる中で、地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、心豊かに、笑顔で幸せな生活を営んでいると思う人たちが増えています。

目指す姿(5年後)

中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材によって、様々なチャレンジや、支え合いの輪が広がり、将来に向けて「夢や希望」が持てる新たな地域づくりの取組が始まっています。

また、生活に身近な課題解決をはじめとした、あらゆる取組において、デジタル技術を活用し、地域の持続可能性を高める仕組みが、中山間地域全域で展開されています。

地域に愛着や誇りを持つ人々たちによる、様々なチャレンジが行われるとともに、地域に根差した活動を担う内外の人材が増え、互いにつながり合うことによって、地域を支える人材のネットワークが生まれ、地域の活力を生み出す活動が展開されています。

多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業や経営発展にチャレンジすることによって、地域産業が維持・成長し、働き続けられる環境が整いつつあります。

医療・福祉、交通など、地域の実態に応じた生活基盤の確保によって、人々が安心して暮らせる生活環境づくりが進んでいます。

とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、地域の移動実態に応じた交通再編や新たな移動サービスの普及が進むことで地域コミュニティ内での日常生活に必要な移動が確保され、地域で支え合い、誰もが移動をあきらめることのない地域づくりが進んでいます。

集落において、今後見込まれる変化に的確に対応するための住民主体の話合いが行われ、自治活動の見直しや、暮らしを支える生活サービス機能の確保など、集落の状況に応じた取組が進むことで、将来に対する不安が解消されつつあります。

指 標

地域コミュニティ活動が展開
できている住民自治組織の割合
(全域過疎市町)

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
—	74.8% (R7)	75.0%

目標設定の考え方

人口減少や少子化・高齢化が進展する中山間地域の活力を生み出し、持続可能なものとしていくためには、住民自治組織を基盤とする地域コミュニティの活動が展開されていることが必要であり、「ひろしま里山・チーム500」をはじめ、地域の活力創出に資する人材と、地域(住民自治組織)との結びつきを強化し、地域の課題解決を促していくことで活動の持続性を確保することを目指し、とりわけ人口減少等が著しい全域過疎市町の現状水準維持を目標に設定した。

働くところが少ないと感じる
中山間地域の住民の割合

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
76.7% (R2)	73.2% (R6)	70.0%

目標設定の考え方

中山間地域が次世代にわたって持続可能な地域社会であり続けるために必要な、生活の糧を得る「仕事づくり」について、着実に施策を実行していくことで、現状より改善することを目指して設定した。

生活を満足と感じる
中山間地域の住民の割合

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
67.6% (R2)	41.1% (R6)	60.0%

目標設定の考え方

中山間地域が次世代にわたって持続可能な地域社会であり続けるために必要な、安心な暮らしを支える「生活環境づくり」について、着実に施策を実行していくことで、過去3回の調査結果(平均値56.1%)よりも向上することを目指して設定した。

地域で支え合う新たな
交通サービスを交通計画に
位置付け、取組を進める市町数

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
—	12市町 (R6)	19市町

目標設定の考え方

利用者の減少等により生活交通の維持が特に厳しくなる中山間地域においては、地域で支え合う新たな交通サービスが必要となるため、中山間地域を有する全ての市町で取組が進んでいることを目指して設定した。

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 県全体を上回るスピードで進む人口減少や高齢化により、中山間地域の課題解決に取り組み、地域の価値を継承していく地域コミュニティの源泉である住民自治組織をはじめとする担い手の不足が深刻な状況となっているため、地域コミュニティ活動の持続性を高めていく必要があります。

用語解説

全域過疎市町…全域が過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に規定された過疎地域である市町のこと。(府中市、三次市、庄原市、安芸高田市、江田島市、安芸太田町、北広島町、大崎上島町、世羅町、神石高原町の10市町)

- 人手不足や事業承継等が経営課題となっている中小企業が増えてきており、生活の糧を得るための働く場の維持・創出に向けた取組を一層推進する必要があります。
- 医療・介護、福祉、交通などの日常生活に直結する生活基盤の確保が困難となることも見込まれることから、マンパワー不足をはじめとした条件不利を補うデジタル技術を様々な分野で効果的に活用することで、地域の持続可能性を高めていく必要があります。
- 高齢化の進展や運転免許返納に伴う移動の制限、市町中心部への生活関連施設の集約化による交通アクセスの格差の拡大等により、顕在的・潜在的な移動困難者が増加しています。こうした移動困難者の解消に向け、様々な交通データや地域の実情を踏まえ、移動の需要と供給の最適化を図った上で、暮らしを支える生活交通の確保に取り組む必要があります。
- また、バス路線など日常生活を支える道路において依然として多くの狭隘区間があり、安全性・定時性の確保が十分でないことから、円滑な移動を可能とする道路ネットワークを構築する必要があります。
- 今後、無住化が懸念される集落が大幅に増加することが見込まれています。こうした状況下では、地域における自助・共助など生活を支える各種機能が低下し、現在の地区・集落の住民自治体制では、解決困難な事象が広範囲にわたり顕在化していくことが予測されるため、持続可能な地域づくりに向けて、全体最適化の考え方を踏まえた「集落対策」について、重点的に取り組む必要があります。

目指す姿の実現に向けた取組の方向

① 地域を支える人材の確保・育成

地域のハブ的役割等を担う人材の確保・育成に取り組むとともに、地域外の住民等の人的リソース(関係人口)と地域とのつながりの形成を促すことにより、地域の活力増進を図り、持続性のある地域コミュニティづくりを進めていきます。

② 地域産業の維持・成長支援

人手不足等に起因する経営課題の解決を図るため、首都圏等からの副業・兼業人材の力を効果的に取り込むための支援などを通じて、中小企業の成長支援につなげます。
また、中山間地域の課題解決につながる起業を後押しするなど、働く場を維持・創出します。

③ 安心して暮らせる生活環境の確保

人手不足等を補うデジタル技術を積極的に活用し、生活交通や医療・福祉、防災など、日常生活に直結する課題解決の取組の創出を支援し、住民の暮らしの向上を図ります。

④ 暮らしを支える生活交通の確保

地域の実情に応じて、必要とされる生活交通の在り方を検討するとともに、デジタル技術を活用したMaaSなど、新たな交通サービスの導入に向けた支援を通じて、より持続可能性の高い生活交通への再編を促進します。

用語解説

ハブ…ハブ(HUB)とは本来、集約点や中心といった意味で広く用いられている中、地域のハブとして、地域における多くの人をつなげる中心的役割として捉える概念。
関係人口…移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と継続的かつ多様な形で関わる人々のこと。
MaaS…Mobility as a Service の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して円滑な接続等による最適な移動手段を提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念。

⑤ 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備

中山間地域に住む人が、安全で快適な生活を享受できるよう、引き続き、地域拠点と集落等を結ぶ道路の整備やバス路線1車線区間の解消に向けた取組など、地域の実情に応じた効率的な道路整備を推進します。

⑥ 持続可能な地域づくりに向けた集落対策の推進

中山間地域に住む人が安心して暮らしていくために、将来に向けた地区・集落の在り方や、集落の状況に応じた自治活動の見直しなどについての住民の主体的な話し合いを促すとともに、住民、住民自治組織、行政等の関係者が一体となって、暮らしを支える生活サービス機能の確保などの取組を推進します。

重点項目に関する主な取組

- 持続可能な中山間地域の実現に向けて、あらゆる分野における活力の源泉となる、地域内外の多様な人材の確保・育成を進めます。
- 地域産業が維持・成長し、働く場が維持・創出される環境づくりに向けて、首都圏等からの副業・兼業人材の力を効果的に取り込むための支援や、中山間地域の課題解決につながる起業を後押しします。